※令和４年度以降入学生用

学校番号	C4001

令和８年度　国語科

科目	**文学国語**	単位数	4
使用教科書	「標準　文学国語」　（第一学習社）		
副教材等	「文学国語　学習書」　（ＮＨＫ出版）		

	前期	後期
単位	２	２
レポート	６通	６通
必要出席回数	２回	２回
テスト	○	○

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

明治（近代）以降の「小説」「詩」「随想」等を取り上げます。それは、今私たちが使っている日本語で書かれたものです。「読むこと」は、「知ること」であり、「考えること」でもあります。知らない言葉は辞書等で積極的に調べてみましょう。普段「本（文章）を読む」ことも大切です。声を出して読んでみましょう。好奇心を旺盛にして、「文学国語」の世界を楽しんでください。

２　学習の到達目標

a　知識及び技能	文学的な文章の学習を通して、言葉の働きや文章の技法、特徴、語句などを身につける。
b　思考力、判断力、表現力等	文学的な文章の学習を通して、自身のものの見方や感じ方、考え方などを深め、作品を多面的・多角的に解釈する力を身につける。
c　学びに向かう力、人間性等	文学的な文章の学習や読書の活動を通して、社会や作品に対して自ら深めていこうとする態度を身につける。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a　知識・技能	b　思考・判断・表現	c　主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、言語文化に対する理解を深めることができる。	深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができる。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養っている。

- 学習指導要領(第１章第７款の４)に則り、ラジオ・テレビ放送その他の多様なメディアを利用して行う学習による面接指導時間数の免除(面接指導の時間数のうち 10 分の６以内の時間数を免除)の制度を活用する。
- 学年末に５段階で評価する。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

範囲	単元の学習内容	単元の評価規準	評価方法		
			知(a)	思(b)	主(c)
前期（S2時間、R6枚）	①内容や構成描写の仕方などを捉える。 [教材]相棒 ②登場人物の心情や情景の描写を捉える。 [教材]デューク ③他者の体験を読む [教材]バグダッドの靴磨き ④詩の主題を理解する。 [教材]わたしが一番きれいだったとき ⑤作品に託された思いを読み取る [教材]死んだ男の残したものは ⑥登場人物の心情をおさえ、「卒業」の意味を考える。 [教材]卒業	a: 言葉には，想像や心情を豊かにする働きがあることを理解すること。 文学的な文章やそれに関する文章の種類や特徴などについて理解を深めることができる。 b:【読むこと】語り手の視点や場面の設定の仕方、表現の特色について評価することを通して、内容を解釈することができる。 【読むこと】文章の構成や展開、表現の仕方を踏まえ、解釈の多様性について考察すること。 c:作品に対して自分の感性や想像力を働かせ、考えを深めようとしている。	・レポート ・テスト	・レポート ・試験	・レポート ・スクーリング
後期（S5時間、R4枚）	①登場人物の心情や情景の描写を捉える。 [教材]ナイン ②価値判断や評価について考えを深める。 [教材]清兵衛と瓢箪 ③詩の内容と韻律を深く味わう。 [教材]汚れちまった悲しみに… ④詩の内容や構成、展開、描写の仕方を捉える。 [教材]永訣の朝 ⑤登場人物の心情や情景の描写を捉える。 [教材]山月記	a: 文学的な文章を読むことを通して，我が国の言語文化の特質について理解を深めること。 文学的な文章における文体の特徴や修辞などの表現の技法について、体系的に理解して使うことが出来る。 b:【読むこと】作品に表れているものの見方、感じ方、考え方を捉えるとともに、作品が成立した背景や他の作品などとの関係を踏まえ、作品の解釈を深めることができる。 【読むこと】作品の内容や解釈を踏まえ，人間，社会，自然などに対するものの見方，感じ方，考え方を深めること c:作品について、根拠に基づいて意味を理解しようとし、客観的に作品を分析しつつも、自身の感性に基づいて作品を読もうとしている。	・レポート ・テスト	・レポート ・テスト	・レポート ・スクーリング

※ 表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度

※ 表中の「S」とはスクーリング、「R」とはレポートのことを指す

※ 通信制の高校である為、単純な授業時数で表わすことはできない。参考に、レポート１枚あたり２時間を想定して各領域における授業時数を示しておく。

・書くこと　…　（　6）時間

・読むこと　…　（２１）時間